横浜陶芸友の会だより

第196号
令和8年
3月8日発行

「2月の役員会を終えて」

横浜陶芸友の会会長　鍋島　弘義

今回の役員会は、事業部からの「作品展」の報告と会計報告があり、また各部の会計監査もありました。

会計監査は役員会終了後、出席者で監査を行いました。

また、「総会」の開催についても話し合われ、今年度と同じく4月の役員会が行われた後、休憩をはさみ開催することになりました。

詳細については各部からの報告をお読みください。

「作品展」の来年度会場のところで、事業部からは今年度と同じ「かなっくホール」の提案があり一度はそれで決まったのですが、その後会員の高齢化もあり、あと何年「作品展」が出来るのかと考えた時に、「もう少し場所の検討をしてもいいのでは?」との意見が出されました。そこで、いくつか資料を集め場所、時期、開催方法、金額など役員会やラインを使い検討する事になりました。

早ければ、来年度には「作品展」の時期や、場所や開催方法が変わるかも知れません。会のために頑張っていらっしゃる方がお元気なうちに、素晴らしい作品を多くの方達に、見てほしいものです。

作年は保土ヶ谷小学校の生徒作品が展示され賑わいましたが今年は小学校三年生の作品が一名、特別展示されていました。

これは、会員の甥っ子で一緒に作品を作ったそうなので展示してもらいました。

会員の方でお孫さんと一緒に作品を作った時には、ご一緒に展示されたらいかがでしょう。きっと喜ばれますよ。

令和七年度も皆さまのご協力のお陰で無事終了することが出来ました。

ありがとうございました。

また、来年度もよろしくお願いします。

特別展示

「役員会」報告

2月14日（土）15時より、杉田地区センターにおいて、会長、副会長、各役員 6名の出席で話し合いました。

「総務部」より

○「総会」は、役員会と同日開催で行います。

「総会日時」

令和8年4月25日（土）17時～

（議題）
- 令和7年度の活動報告
- 令和8年度の活動予定
- 新役員紹介　など

次回の「役員会」は

令和8年4月25日（土）15時～

（議題）「総会」に向けての話し合い

○会計より

・「作品展」の会計監査と各部の会計監査を役員会終了後に行い、特に問題もなく終了いたしました。

・次回（4月）の役員会で決算報告と予算案を提示し「総会」に提案いたします。

・令和8年度会費未納者は1名で
　入金済者は　18名　でした。

○広報より

・今回で「第45回作品展」の紹介が終了

・次回は令和8年5月上旬に発行する予定

「事業部」より

「第46回作品展」について

〈会期〉令和8年1月13日（火）～18日（日）

〈会場〉かなっくホール3階ギャラリーA

〈来場者数〉300名（前回294名）

〈名簿記入者数〉118名（前回145名）

〈出展者数〉13名（前回13名）

〈出展作品点数〉201点（前回203点）

※特設・専修コーナー・飛び入り作品含む

〈特設コーナー〉課題「飯茶碗」13点

〈専修コーナー〉15点

〈案内はがき送付数〉154枚（戻り2枚）

〈懇親会〉7名（居酒屋「木曾」にて行う）

〈友の会のあゆみ〉昨年に引き続き掲示

〈漫画「陶陶さん」〉21～40話を掲示

〈その他〉

○DVD（陶芸の人間国宝）を上映しました

※来年度の**「特設コーナーの課題」**は**「湯呑み」**の予定です。

○皆さまのご協力により当番の人数も確保できました。ありがとうございました。

○来年度の**会場**については、一応今年度と同じ「かなっくホール」を提示してありますがやはり、参加者も減り作品の質・量とも減り寂しくなった。との声も聞かれ少し検討することになりました。

「専修部」より

前回の会報で、専修部在庫**釉薬原料**を会員の方に無料配布します。と報告いたしました。その結果

・蛙目粘土　・朝鮮カオリン　・福島長石
・松灰　・3号石灰　・酸化コバルト
・沈殿防止剤

をお引き渡しすることが出来ました。

来年度も「**使っていない釉薬**」の在庫を調べ、希望者に配布する予定です。

また、「焼成会」についても、**「やめる」**のではなく**「一旦中断」**し、来年度は「器」を主体とした「作陶した時の思い出」や「苦労話」などの「陶芸談義」のような事を行う予定です。乞うご期待。

「焼成」に関しては、鈴木和子さんが個人てきに「技文の窯」を借りて10月前後に行うそうです。詳細は、後日決まりましたらお知らせできると思います。

昨年行われた「第45回　作品展」の紹介が今回で最後になりました。

作者の色々な思いをお聞きしながらまとめているのですが、なかなかまとめるのが難しいものです。

「第45回作品展の作品」　鍋島弘義

この 3 個のカップは、専修部の焼成会で焼いてもらいました。
釉薬は、トルコ青、鉄赤、OP 釉です。

下の土台は土鈴で枝も鳥も土笛になっています。
青は呉須とドベを混ぜたもので、茶色は酸化鉄とドベを混ぜた彩土です。

このカップと花器と片口の青色も呉須とドベの彩土です。

「第45回作品展の作品」　山本美智子

「土面」 備前土　穴窯

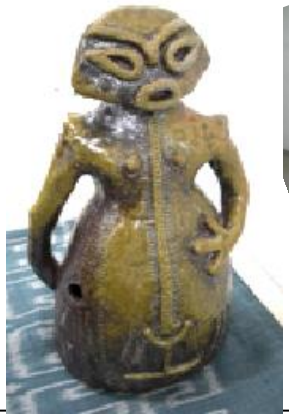
「縄文の世界」

「遮光器土偶」 備前土　穴窯

「遮光器土偶」は本当の縄文時代のように焼こうと思って 900℃で穴窯で焼いています。

「縄文のビーナス」 備前土　穴窯

「縄文のビーナス」は正面の写真しかなかったので、どういうふうに作るか分からなかった。
　正面から見た時には真直ぐに見えたが横から見ると反っているのが分かったので、それで反らせて作っています。



「ポーズ土偶」 備前土　穴窯

「仮面土偶」 白･赤土　ガス窯

「合掌土偶」 備前土　穴窯

「ポーズ土偶」はドレスを着ているように見えますが、これは妊娠している女性で真ん中の線は妊娠線を表していて、ここから子供が産まれるんだと、いうことを表している裸の時のイメージの形です。
　女性が一番崇められていた時代ですね。

　作り方は紐造りで足から作っていく。中は空洞なんですよね。乾かしながら積み上げていきます。設計図を書かないとバランスが崩れてしまい、まったく同じには作れません。背の高さや幅が違っていてもだめだし、腰の位置が違ってもだめだし。興味のある人には作り方を教えています。
　このすすけた色は「墨呉須」です。ちょっと布で汚れた感じを出しています。温度は 1240～50℃で、皆さんと同じです。釉薬を掛けないから光らないので。灰がかかって穴窯風になります。
　立体感を出すには前や横から写真を撮り正確に縮尺で寸法のズレを計算して出していきます。

「仮面土偶」は家のガス窯で焼いたもの。「合掌土偶」は、女性がお産をする時に、こういう姿勢でおこなっていた様で、「無事に産れますように」というお願いや祈りの合掌だと今の研究者たちが名付けたそうです。土偶はすべて女性です。
　なぜかと言うと、当時は人口がなかなか増えない。５歳までなかなか生きられない事が多かった。
　そこで 20 代の女性が重要で崇められた。
　また生まれ変わって来られますように。と。
「仮面土偶」も女性ですが、女性が自分の顔を出さないで覆っていた。そんな感じです。
　文様なども違っているので他所の国から来た女性ではないか。とも言われています。

「第45回 作品展」　吉村希世子

「合掌造民家（庭付）」 信楽白赤まぜ　穴窯焼成　自然釉
この作品は穴窯で焼きました。
木や薪など周りの材料は、あっちこっちから集めました。

「大皿」（森の木の子のお化け）
赤信楽土　電気窯焼成　木灰釉
器に入れて、その形を作ろうと思ったら粘土が外側にいっぱい余っちゃって出したら面白い形が出来たのでそのまんま焼いてみました。

「小鳥と動物」
黒泥土　電気窯焼成
この作品にも作った松灰釉を掛けました。本当にいい釉薬です。普通の電気窯でこんなにキレイに発色するんですよね～。こうなると面白くなってくるのよね。
若い子たちにも教えてるんだけど。細々とやっておりますのよ。
新しいものに挑戦して。

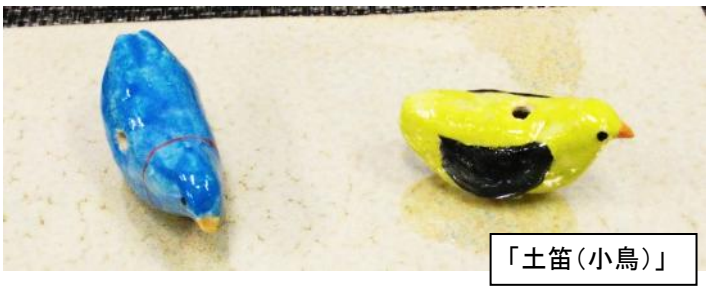
「彩磁皿（書き落とし）」
黒泥土　電気窯焼成　透明釉
黒泥土に白の粘土を生のうちに掛け模様を描き落として出しました。
柔らかい生のうちに削るときれいに線が出るんですよ。そして、素焼きをして透明釉を掛けました。

「小鉢（薄造り）」　まぜ土　灯油窯焼成　松灰釉

薄造りの「小鉢」は、穴窯の灰をもらってきて水簸して毎日水を取り替えて松灰釉を作るのに３ヶ月位かかりました。それで還元窯で焼きました。
薄造りは、長石を手に着けながらやると粘土が手にくっつかないから、いくらでも薄く作ることが出来ます。
イッチンの小鉢も同じ釉薬をかけました。イッチンの白は練り込み用の粘土です。

「小鉢（イッチン）」
まぜ土　灯油窯焼成　松灰釉

「第45回 作品展」　深川貴子



「土笛（小鳥）」

「オカリナ」

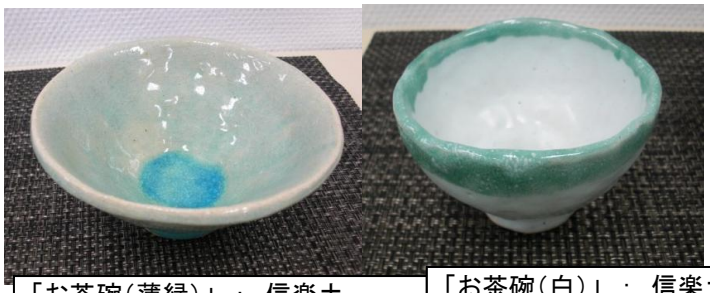
土笛は全部音が出せました。オカリナは、色が黒天と白の混ざりが気に入っています。

「第45回作品展」　深川貴子（前頁からの続き）

「小鉢」：信楽土　電気窯　白萩

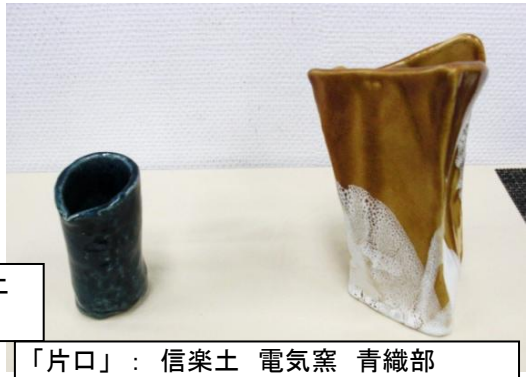
「お茶碗(青)」：信楽土　電気窯　なまこ･黄瀬戸
「お茶碗(白)」：信楽土　電気窯　唐津ワラ白･青織部

「お茶碗（青)」は生徒に釉掛けの見本用に作ったものだが、焼く時になって釉薬が剝がれたのでナマコの上に黄瀬戸を塗った。焼き上がったら思いのほか良かった。ナマコが白っぽい青だったがまだ少し剥げていたので作品展に出すためもう一度ナマコを掛けて焼いてみた。飴色っぽい感じの濃い色になり、すごくきれいになりました。
「小鉢」は厚くなり重くなったので、削って模様にしました。



「お茶碗(薄緑)」：信楽土
電気窯　青白交趾･トルコﾏｯﾄ釉

「お茶碗(白)」：信楽土
電気窯　白萩･織部



「片口」：信楽土　電気窯　青織部
「花器」：信楽土　電気窯　黄瀬戸･白萩

「平皿」：信楽土　電気窯　オパールラスター
「平皿」：シンリュウ赤7号　電気窯　サヤ炭化

「花器」は粘土の板をヘンテコな形に切ってそれをつなぎ合わせて上を適当に切り作りました。
「黄瀬戸の上に白萩を掛けるとボツボツになる。」と、生徒が言うので掛けてみました。
「平皿」はさや炭化の研修でさやの中に藁をたくさん入れたり巻いたり、貝を置いたりして焼いたものです。裏に火襷が出ています。皿の色の違いは粘土の違いによるものです。

「第45回 作品展」　鈴木和子

「長水指」
益子＋黄瀬戸
青磁氷裂釉　電気窯

「長水指はけ目」
益子赤　陽明釉
電気窯

「長水指白黒土張付」
信楽赤　自然釉　穴窯

「徳利 2 個」:信楽赤　自然釉　穴窯

陶陶さん

第117 号

あかほし

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会　検索

http://www20.atpages.jp/tomonokai/

横浜陶芸友の会だより
第 196 号
（令和８年３月８日発行）
（発行人）横浜陶芸友の会

「第45回作品展」　鈴木和子（前頁の続き）

「掛花２個」：信楽赤　自然釉　穴窯

「ぐい呑み３個」：信楽赤　自然釉　穴窯

「大はまぐり２個」：信楽赤　自然釉　穴窯

「あわび皿　２個」：信楽赤　自然釉　穴窯

【編集後記】

・**「第45回作品展」**のご紹介は今回で最後のはずが、また一名掲載できませんでした。申し訳ありません。
次回に掲載いたします。

・今回掲載された「縄文土器」の素晴らしい作品は正確な縮尺の設計図を基にして作られているとのお話でした。
また、土偶はすべて女性である。当時は崇められていたのだ。とのお話で改めて作品を見直しました。

・今年度の会報も皆様のおかげをもちまして、何とか発行することが出来ました。ありがとうございました。
来年度もよろしくお願いいたします。

鍋島弘義